

中学生になっても

がんばりたい

大和 美香さん（上町）
三菅 葉奈さん（上町）



三菅さん（左側）と大和さん

第14回全国書道展全国教育書道展で、全日本書写書道学会会長賞を受賞した大和美香さんと、同じく特選に入賞した三菅葉奈さんに話を伺いました。二人は上三川小学校の6年生です。小学校1年生の時から同じクラスで、書道を始めたのも同じく小学校2年生からと仲の良い二人です。

始めたきっかけは、「字がうまくなりたかったから始めました。」とのこと、「成果は上がったと思います。」と答えてくれました。

書道は週一回塾に通って行うだけでなく、自宅ではまったくやらないとのこと。塾では毛筆と硬筆の両方を行っています。

今月の輝ける星

分野を尋ねると、「硬筆は間違えれば消しゴムで消せるけど、毛筆ははねたり、はらったり、消せないのが難しいけれど楽しいです。」と話してくれました。

現在初段の大和さんと三菅さんはお手本無しでも書けることで、今回受賞した作品は、なかなか納得いかず、午後九時過ぎまで練習をしました。その努力が報われ、受賞されたことを先生から報告されると「とてもうれしかったです。」と笑顔で答えてくれました。今後については、「中学生になってからも部活をやりながら、頑張つて続けていきたいです。」と力強く話してくれました。



受賞した三菅さん（左側）と大和さん（右側）の作品

今月の農産物は春トマトです。

JAUつのみや、春トマト専門部会支部長の高山勝利さん（下梁）に話を伺いました。

現在、町では28人が春トマト部会に所属しています。今年は例年に比べると順調で、良い春トマトが収穫されているとのこと。高山さんは「寒さの影響で、ハウス内の暖房の回りがよく、成りが良いのだと思います。」と話してくれました。

春トマトは、8月下旬に種を蒔き、10月下旬に定植。収穫は1月から6月まで行い、収穫終了後は、次の春トマトの生産準備と、1年を通して作業を行うとのこと。

高山さんのお宅では、昭和52年に、20aから始めたそうです。現在は35a作付けしており、奥さんとお子さん夫婦の4人で生産をしています。

3月からは病気の多い時期になるので、気を抜けない日が続くとのこと。上三川産の春トマトは、京浜東北方面の8市場へ出荷されています。



春トマトは、リ

わが町の農産物

春トマト 編

コピン、カロチン、アミノ酸を豊富に含む緑黄色野菜の代表選手です。昔から「トマトが赤くなると医者が青くなる」と言われる赤の主成分のリコピンは、発がん性物質の抑制効果があり、動脈硬化が原因で起こる高血圧、脳卒中、心臓病などの生活習慣病にも良いとのこと。春トマトは生食用なので、高山さんは「ガブリと食べるのが一番おいしいですよ。今の春トマトは塩をかけなくても十分味がありますから。」と力説してくれました。

後継者たちも育っているという専門部会の人たちは、全員がエコファーマー（堆肥等の土づくりを基本として化学肥料、化学農薬の使用量を低減するための生産方式を自分の農業経営に導入する計画を立て、県知事に申請し、認定された農業者の愛称です。）に認定されているとのこと。今後の目標について尋ねると「安全、安心、おいしいトマトを消費者に届けたいですね。」と意気込みを語ってくれました。

